

13 畜産生産力・生産体制強化対策事業

令和8年度予算概算決定額 784百万円（前年度 774百万円）

<対策のポイント>

肉用牛・乳用牛・豚・鶏の改良や牛個体識別番号と関連する生産情報等を集約・活用する体制整備を推進するとともに、肉用牛の肥育期間の短縮・出荷時期の早期化や和牛の信頼確保のための遺伝子型検査の支援により、畜産物の生産力及び生産体制の強化を図ります。

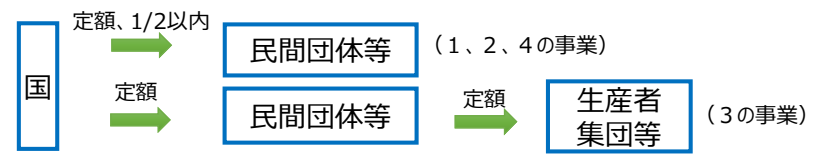
<事業目標> [令和5年度→令和12年度まで]

- 生乳生産量：732万t→732万t
- 牛肉生産量：35万t→36万t
- 豚肉生産量：91万t→92万t
- 鶏肉生産量：169万t→172万t
- 鶏卵生産量：248万t→252万t

<事業の内容>

- 1. 家畜能力等向上強化推進**
 遺伝子解析技術等を活用した新たな評価手法や始原生殖細胞（PGCs）保存技術等により、生涯生産性の向上、遺伝的多様性を確保した家畜の系統・品種の活用促進、肉質・繁殖能力の改良の加速化等を推進する取組を支援します。
- 2. 畜産情報活用強化対策**
 畜産関係団体やITベンダー等が連携し、牛の個体識別番号と当該牛に関連する生産情報等を併せて集約し、活用する体制を整備する取組等を支援します。
- 3. 肉用牛短期肥育・出荷月齢の早期化推進**
 肉用牛生産における生産コストの削減や環境負荷の低減に資する、肉用牛の肥育期間の短縮・出荷月齢の早期化を推進するため、
 ① 意欲ある生産者団体による先行地調査、実証等の取組
 ② 早期出荷牛肉の認知度向上、理解醸成を図るための品質評価等の地域の取組を支援します。
- 4. 和牛の信頼確保対策**
 我が国の貴重な知的財産である和牛の血統に関する信頼を確保するため、遺伝子型の検査によるモニタリング調査を推進する取組を支援します。

<事業の流れ>



<事業イメージ>

1. 家畜能力等の向上強化
 ・遺伝子解析技術による評価手法
 特定の能力と関連のある塩基配列をどれだけ多く含むか比較
 高能力牛と推定

・生涯生産性の向上
 濃厚飼料の削減につながる乳量変動の小さい牛へ改良
 エネルギーを補うために大量のエサが必要

2. 畜産情報活用強化対策

畜産のビッグデータ等の活用による畜産経営改善支援

3. 肉用牛短期肥育・出荷月齢の早期化推進

① 早期出荷に向けた生産推進
 早期出荷に向けた意欲ある生産者団体による実証等を支援

② 早期出荷牛肉の流通促進
 成分検査、生物・物理検査、官能検査による品質評価及び販路開拓を実施

4. 和子牛の遺伝子型の検査

・国産和牛の信頼低下
 ・購入者の利益の遺失

モニタリング調査を通じ、血統矛盾事案の発生を抑制

[お問い合わせ先] (1、2、3①、4の事業) 畜産局畜産振興課 (03-6744-2524)
 (3②の事業) 食肉鶏卵課 (03-3502-5989)